

公益財団法人ジオパワー学園設立準備財団

2020年度 事業報告書

(自2020年12月25日至2021年7月31日)

事業の概要

ジオパワー学園設立準備に関する事業を行い、日本で失われつつある“地熱掘削技術”を次の世代へと継承・保存することを目的とした、将来性のある地熱発電にかかる一貫した掘削技術教育機関とすることを目的とした学校の設立を目指す。

1. ジオパワー学園設立準備事業

計 25,885 千円

①ジオパワー学園の設置に必要な施設設備の整備(校舎新築工事、掘削機械や校舎の備品等の調達)

〈校舎の建設のスケジュール〉

2020年7月：北海道白糠町に本社のある株式会社八百坂建設と工事請負契約締結

2020年9月：安全祈願祭、工事着工

2020年12月：造成等の基礎工事が完了

2021年1月：構造躯体完了(校舎の外側完了)

2021年5月：内装含めて完成。

◆設備について

学校校舎、寄宿舎、倉庫は完成しており、寄宿舎の家具、調理器具の設備等は完了しており、来年の生徒受け入れ状況は完備している。

◆掘削機械の購入について

技術の教育内容を向上させるには、実際に掘削に用いている機器を教材として使用することが重要となる。しかしながら、掘削機械は、その能力により多種の形式があり、数千メートルを掘削するような掘削機は特殊な機械で、その価格も高価なものである。そのため、掘削会社や技術サービス会社等の民間会社に、掘削機器の提供を依頼しており、現在3社から掘削機械部品等の機械の寄附を受け入れている。現在、教育の用に供するための掘削機械や掘削機械の部品を収集しており、最終的に多種多様な掘削機械を揃える予定である。

◆校舎の備品等の購

校舎内で使用する椅子や机等の備品の購入、設置は2021年4月に完了している。

◆ジオパワー学園の設置に必要な教科書・カリキュラムの策定

〈教科書について〉

掘削技術は多くの技術の集合体でもあり、掘削技術教育用の教科書は無いのが現状である。そのため、当財団の理事でもある島田を中心に、実務経験を持つ掘削技術者に資料の収集と取りまとめを依頼し、「ロータリー掘削編」と「スピンドル掘削編」の教科書案を作成している。

現在、2021年4月に本の出版契約を東京都千代田区の株式会社オーム社と締結し、2021年内の教科書出版に向け、協議を重ねている。また、教科書の内容については、下書きは完成し、教科書査読委員会での確認作業を行っている。

〈カリキュラムについて〉

掘削技術を専門とする学校は国内に無く、教育用のカリキュラムも一から策定することが必要となる。

今年度は、カリキュラムの作成が完了し、2021年6月の学校法人ジオパワー学園及び掘削技術専門学校の認可の審査に完成したカリキュラムを提出した。

②ジオパワー学園の設置に必要な講師の募集・選考

◆掘削技術専門学校の講師の資質・募集人数について

地熱の掘削は、高温環境や火山ガスを抑制しながら掘削し、これらの地下環境や高温蒸気の生産に耐えうる坑井を仕上げる技術が必要である。掘削技術教育は、実務経験のある幅広い技術者を講師として招聘し、授業を行うことが重要である。

このため、教育を行う講師は、校長並びに安全教育を主体とした2名の合計3名を確保し、最終的に専門学校で教える各分野の非常勤講師として7名、学校医として2名、事務員1名を確保した。

③ジオパワー学園設立準備資金の寄附募集

◆目標寄附募集額

学校設立までの資金として8.1億円を見込んでいる。

内訳は校舎の建築資金6億円、実習で使用する掘削機械1.65億円、校舎の備品等の購入費用0.2億円、旅費交通費等で0.1億円の予定である。

今期は寄附募集について、10億円の寄附が集まる結果となった。

④ジオパワー学園の寄附行為認可の申請

◆スケジュールについて

2022年4月の開校に向け、2019年9月30日付の「掘削技術専門学校の設置計画」について北海道庁から許可を頂いている。

今期は、上記の準備を終え、2021年6月に開催された北海道庁の私学審議会において、学校法人ジオパワー学園及び2022年4月に開校する掘削技術専門学校の認可をいただいた。

⑤地域社会と連携交流(学校開校予定地の釧路地域や北海道内での地熱シンポジウムの開催)

◆地熱シンポジウムについて

一般的に再生可能エネルギーや新エネルギーという単語から連想するのは太陽光発電であり、地熱発電をイメージする人は少ないかと思えます。

しかしながら、【地熱発電の現状と将来展望】に記載したとおり、我が国は世界で第3位の地熱資源量有する地熱資源大国であり、太陽光発電と比べてもクリーンで24時間安定供給できる地熱発電は将来性のあるエネルギーであると考えている。

また、我が国では「温泉」という方法で地熱資源を古くから利用しており、身近な存在である。

もちろん、【地熱発電における課題】で記載の多くの課題もあり、一般的な認知度もまだまだ低い状況であるが、そういった地熱発電を広く認知してもらうために、「(仮称)地熱シンポジウム」の開催を計画している。

今期は、年内のシンポジウムの開催に向け、広告・イベント会社の株式会社道新サービスと協議を重ねて、講演者や講演場所についても確保していたが、コロナを起因とする緊急事態宣言の影響で会場での開催が困難となり、延期を余儀なくされ、最終的に開催はできなかった。来期はWEB上での開催を前提に開催予定。

2. その他活動費

計 2,715 千円

ジオパワー学園設立準備に関する事業を行うため、財団法人としての人件費、会議費、器具備品等

合計 28,600 千円

公益財団法人ジオパワー学園設立準備財団
2020年度 事業報告書の附属明細書

(2020年12月25日～2021年7月31日)

記載事項がないため、記載を省略する。